

# スクールライフ school

全国で性教育の講演活動を行っている「いのちの応援舎」代表、山本文子さん(60)が、高松市が二日、福岡高校を訪れ、性や命の大切さについて話しました。「セックス」「中絶」「妊娠」。山本さんの言葉はストレート。でも、だからこそ伝わるのかもしれない。生徒はみるみる引き込まれました。

山本さんは、約二千人の赤ちゃんを取り上げたベテラン助産師です。三十年余り、病院に勤めまわした。平成十一年に退職し、「いのちの応援舎」を設立。講演のほか、電話で思春期の性の悩みやお母さんの子育て相談に応じています。

「セックスって何でしょう？ いやらしい？ そう思ってる人はかわい

## 性と命 真剣に考えて



「人を愛することは相手を大事にすること」と語る山本さん  
—福岡高校

### 福岡高校 助産師・山本さん(高松市)講演

そう。セックスと聞いて笑うのは自分が生まれてきたことを笑うことにな

るんだよ…みんな、下向いてちゃったね」  
真つ赤な服に、よく通る高い声。四百人の生徒、教師、親は最初、圧倒されたようでしたが、山本さんは構わず明るい顔で続けます。助産師の経験

「実習生時代に命の誕生に初めて立ち会った時の感動、そして心を痛めて

は人を殺すことなんだよ！」「私は命に就いては厳しい」と山本さん。「人を愛することは相手を大事にすること。セックスには責任がつかまとうのよ」と語りかけました。

いる中高生の人工妊娠中絶のことも。胎児は、七週間から十週間、目で手の指がで

ます。中絶手術は、それを器具でかき出すので、ある時、病院に高校生がやってきました。男の子はあ

ついたらかんとした顔で言いました。「彼女のおなかには赤ちゃんがいる。手術してくれ」。山本さんは怒りました。「それな顔が違つように、性

器の大きさも違つて当たり前。心配しないでいい」。月経や性交の仕組みも説明しました。

そして最後に訴えました。「あなたが生まれた時、お父さんお母さんは涙を流して喜んだのよ。病院の先生も、おじいちゃんおばあちゃんも、みんなに祝福されて生まれたことを忘れないで」

いばり

携帯電話を保持して